



「笑顔とつながり」

永田台

サステイナブルスクール

No.540 1月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和3年1月6日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



変化を楽しみ対応する力

校長 武山 朋子

年末年始の横浜には澄んだ青空が広がりました。日本海側から北日本では豪雪に見舞われたところも多いので、そちらにお住まいの方はさぞお困りのことでしょう。雪下ろし等での事故が報じられるたびに、胸が痛みます。

世界の国々に比べて決して広くはない日本の国土ですが、このように地域によって気候は全く異なります。だからこそ、年月を重ねる中でその土地ならではの知恵が生まれ風習が根付き、文化が生まれ育ったのでしょう。食べ物にしても、冬の寒さが厳しい地方では、夏に収穫した野菜でおいしい漬物が作られたり、冷たく乾いた晴天を利用して寒天が作られたりしています。また、高温多湿になる東海地方の夏は味噌が酸っぱくなりやすいため、大豆に麹菌を直接付けることで安全に生育させる豆味噌が作られてきたそうです。

このように私たち日本の先達は、自然環境と向き合い受け入れながら、自分たちの暮らしをより良くしようと様々な工夫を重ねてきました。それは「目の前の事実を受け入れながら変わり続ける」という営みであり、人間ならではの賢さの表れであるように思います。

令和2年の私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大という事実と直面しました。そしてその事実を受け入れざるを得なかったことから、自分たちの生活を変え続けてきました。おかげで前々から変えるべきと言われながらも先送りされていたことがいくつも、世の中で現実となりました。テレワークにより出勤せずにできる仕事が増えたことも、小学校で35人学級が実現することになったことも、その一例ではないでしょうか。病気を正しく恐れることはしつつも、これまで膠着し、なかなか変えられなかった様々な事柄を見直すためには好機ととらえ、踏み出す勇気をもつことが大切です。これからの時代を創っていく人材は、「変わることを恐れるどころかむしろ楽しみ、しなやかに対応できる力をもっていかなくてはならないと考えます。

それを私に確信させてくれたのは、6年生の書いた卒業文集でした。仕上がった原稿を年末に読ませていただいたのですが、多くの子どもの作文で目を引いたのが、「自分から」「挑戦」「達成感」「支え合う」といった言葉です。令和2年はピンチに見舞われた年でしたが、その年に小学校生活のラスト1年を迎えた6年生が、こんなにもポジティブに学校生活を生き生きと創っていることに、深く感じ入り、勇気付けられました。

令和3年も、先行きは分かりません。もしかしたら本校も、感染拡大に伴い休校になることがあるかもしれません。でも、それによって誰かを責めたり嘆いたりするのではなく、できることを考え、しなやかに対応していきたいと思います。どうか今年も、本校だけでなくすべての子どもたちの未来のために、お力添えいただけますよう、宜しく願い申し上げます。

